

道連ニュース

2023年11月号 No.203

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目-3

こくみん共済coop北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

2023年度

第3回理事会開催報告

10月18日(水)ポールスター札幌にて倉島理事(あさひかわ福祉生協)を議長に選出し、開催致しました。冒頭、中島会長の開会挨拶ののち、以下の事項について、提案があり、承認されました。

【議決事項】

1. 2024年度コープ共済連ささえあい助成申請の件
2. 協同組合ネット北海道2023年度年公開講演会費用負担の件

【協議事項】

1. 協同組合ネット北海道の取り組みについて(公開講演会企画について)
2. LPガス問題取り組み報告と今後の取り組み課題について
3. 北海道地区灯油意見交換会意見提出の件

【報告事項】

1. 一般活動経過報告
2. 道連第2回理事会議事録
3. 2023年度上期決算報告の件

4. 学校生協懇談会報告
5. こども食堂支援活動について
6. ほっかいどう若者応援★学生プロジェクト活動報告
7. 友好団体・協賛・後援の件
8. 北海道からの通知について
9. 日本生協連北海道・東北地連報告(D&I・ジェンダー平等トップセミナー開催・協同組合のアイデンティティ声明に関する学習動画と今後の取り組み)
10. 会員報告(コープさっぽろ・大学生協事業連合)

最後に、消費生活協同組合(連合会)等に対する厚生労働大臣表彰※について、この度、北海道生活協同組合連合会前副会長 山口 敏文氏が表彰されたことの報告がなされました。

厚生労働省では、消費生活協同組合法(昭和23年法律第200号)施行を記念し、消費生活協同組合法の理念ののち健康な事業運営を行い、他の模範と認められる消費生活協同組合(連合会)並びに組合役員に対し、5年毎に厚生労働大臣表彰を行なっています。

今回は、法制定75周年を記念して、全国31の組合・連合会と29名の役員が表彰されました。

生活
クラブ

わくわくまつり開催

わくわくまつり実行委員会担当理事 高橋香理

2023年10月9日(祝・月)、京王プラザホテル札幌を会場にわくわくまつりを開催しました。一般市民に生活クラブをアピールし体感する場として、組合員と生産者が協力しながらつくりあげ毎年秋に実施してきた「わくわくまつり」は、コロナ禍において様相を変え、これまで実施してきた語りながら食を提供するスタイルがここ数年できずにいます。今年度の企画運営を考える時点の春先においてもどの規模でおこなうか、まつり内容をどうするのか、やや不安を抱えながらも、組合員自身が待ち望む「生産者に会える」まつりにしたいとの実行委員



イベント会場の様子

の想いは一致し、生産者とも細かな打ち合わせを繰り返しながら話を進めてきました。

まつり当日は、道内外からきた22提携生産者、ま



お楽しみ抽選会

つりスタッフとして支部から参加した100人の組合員、本部委員会の面々が来場した人たちを笑顔で迎え、まつり本来のすがたである、話を弾ませながら楽しく生き生きと接していたのが印象的でした。生産者コーナーでの販売と試食、ステージ企画でのお楽しみ抽選会や生産者トークリレー、支部運営のあそびコーナーや木の砂場、組合員の手づくりのお店など、小規模ながらも「つくる手、食べる手、その手はひとつ」とスローガンを掲げる今年のわくわくまつりを、多くの皆さんに楽しんでいただけたのではないかなと自負しています。



ほっかいどう若者応援★学生プロジェクト活動報告

～アフリカ支援米「収穫祭」へ留学生との交流を兼ねて参加～

日時：9月30日(土)
会場：由仁町 山根農場



5月に行った「田植え祭」に続き、「食・みどり・水を守る道民の会」主催の「収穫祭」参加をさせていただきました。

参加メンバーは、学生プロジェクトメンバー+留学生あわせ30名の他、JAそらち南青年部、由仁町農民協議会の関係者ら総勢69人が参加。参加者は、鎌の使い方や注意について説明を受けた後、圃場に入り、はじめは鎌の使い方に苦労していた学生や留学生たちも、後半には慣れ、自分たちで植えた稲を要領よく刈り終えていました。

今回の活動には、留学生との交流も兼ね、札幌留学生交流センター様にお声掛けさせていただき、留学生と一緒に「収穫祭」へ参加をしました。この日に収穫したお米は、これから山根農場で乾燥させ、年明けの1月にアフリカ支援米として飢餓に苦しむマリ共和国

の人々へと送られます。

この活動では、参加した学生メンバーは、留学生たちとの交流の場、そして一緒に農業の重要性や食料の大切さ、世界の飢餓を学ぶ場となりました。稲刈り終了後は、由仁ガーデンに会場を移し、参加者全員での懇親会が開催され、とても楽しい1日となりました。



コープさっぽろ

平和への想いを発信「ピースフォーラム」

コープさっぽろでは、戦争の悲劇が二度と繰り返されないよう平和の想いを継承することを目的として、



ヒロシマでの学びを報告する様子

道内の中学生・高校生を被ばく地ヒロシマに派遣する「平和スタディツアー」を実施しています。2023年度は道内各地より11名が参加し、平和記念式典や被ばく者講話など数多くの活動に参加しました。

9月30日(土)には平和スタディツアーの報告会「ピースフォーラム」をリアル&オンラインで開催。平和スタディツアー参加者11名のうち8名が被ばく地ヒロシマでの学びや気づきの報告を行いました。現地で見



平和な未来に向けて議論を交わす様子

守るためにできること」をテーマとしたディスカッションを行いました。友だちと「また明日ね」と言い合えること、お母さんの美味しいご飯をお腹いっぱい食べられることなど、身近な日常に関するエピソードが多く挙がりました。終盤には傍聴者もディスカッションに加わり、平和を実現するために具体的にできることについて世代を超えた議論が交わされました。終了後の来場者アンケートでは「我々が中高生に学ぶところが大きかった」「この子たちがいれば将来日本は大丈夫!という気持ちになった」といった声が寄せられました。



最後に笑顔でピース

て、聞いて、感じたことを自分の言葉で力強く発表する姿には会場・画面越しからも大きな拍手が沸き起こりました。個人報告の後には「スタディツアーから帰ってきて平和を感じた瞬間と平和